概要版

令和6年第5回野洲市 MIZBE ステーションかわまちづくり協議会 会議録

開催日時	令和6年8月26日(月) 午前10時30分～午前11時35分
場所	市役所本館3階 第1委員会室
出席者	委員7名中7名
傍聴者	8名

1. 開 会

事務局(野洲市都市建設部 次長)から協議会成立の報告

市長挨拶

2. 議事

- (1) 野洲市 MIZBE ステーションかわまちづくり計画の登録について
資料1に基づき説明

結果 ・野洲市 MIZBE ステーションかわまちづくり計画が8月8日付けで国土交通省に登録されたことを報告した。

主な意見

D委員 資料1のイメージ図の中で重要なのは出入口である。一番上流側(市三宅住宅地側)が出入口になっているがそこになるのか、それとも敷地の真ん中あたりになるのか、それによって考え方がかわる。出入口が上流側だけとなると、イベント開催時は出入口を1箇所に頼ることになるので心配している。高専の出入口は違う場所に計画されていると思うが、まず、その辺のイメージを持って全体の構想を考えるべきである。資料に明示されていないので示していただきたい。

事務局 今後、水防センター、駐車場、スポーツ関係の施設などを配置していくが、出入口も確定ではなく、地域の方々の意見も聞きながら計画を進めていきたいというのが基本姿勢である。そのあたりを踏まえ、将来の利便性というところも留意しながら今後進めていきたい。

- D委員 地域の方々と十分すり合わせをお願いする。個人的には利便性を考えると出入口の位置は敷地の真ん中が一番ふさわしいと思う。また、イメージ図の中に休日マルシェとあえて「休日」という言葉が書かれているが、特別何か意味があるのか。
- 事務局 休日にも使っていただけるという意図である。利用方法をイメージしていただくために使用している。
- D委員 実際の利用では夜間のマルシェも考えられるので、あえて休日というネーミングは必要ではないと思う。
- 議長 ご意見として承る。
- F委員 資料1の別紙1-2のヘリポートの大きさはどれぐらいか。
- 事務局 ヘリポートについてはこれから詳細設計を進めていくが、国土交通省で所有するヘリコプターのサイズを考慮し、約40m四方をベースに検討することになると考えている。
- E委員 昨今の夏場の暑さ対策として、屋根等の設備が必要だと思う。1時間程度の滞在であってもかなり厳しい状態だと思うので、避難場所として日除け等を考えている箇所があれば教えていただきたい。
- 事務局 夏場の熱中症対策という目的で屋根付き施設を作るとするのが難しいところはであるが、災害時に活用する雨避け、待機場所、避難場所として整備し、夏場にも使用するという事は検討の余地があるとは思っている。平常時の利用の際には利用者に負担をかけないよう検討したい。
- D委員 別紙1-2に国土交通省と野洲市の整備内容が記載されているが、県にも関わっていただきたい。災害が発生すると、水防センターは広域的な災害対策拠点となるため、県としても整備に協力いただきたいと思っている。先般、滋賀県商工連合会の理事会が行われた際、MIZBEステーションを野洲市だけの平時の活用だけではなく、県下の18商工会がそれぞれの地域のブランド産品等を発信する拠点として活用できないか検討しており、県商工会連合会の理事会で承認を得て、県にも一度お願いしてはどうかという話が出ている。商工の発展に寄与し、賑わいにつながると考えているので再考いただきたい。
- 議長 この件に関しては、要望として然るべきときに県へ伝えるということだよ

いか。

A委員 県産品やブランドの発信は大事だと思うが、具体的に発信にはどのような施設やハードウェアが必要と考えられているか教えていただきたい。

D委員 水防センターの規模が示されていないのでわからない。野洲市だけの活用を考えるのであれば司令室などコンパクトな施設でいいが、この地域の全体のことを考えると、この際にできるだけしっかりしたものが必要だと思う。大体の予算が示されれば憶測がつくが、数千万の建物で収まるのか、何十億かによって全く違うので、その辺も示された段階でそういう活用方法もあるということによって要望していきたい。あくまで意見である。

A委員 平常時は活用されず災害時だけでは勿体ないというような発想だと思う。水防センターの規模は、今後、市が中心となって決めていくことになる。大きな災害が起こった際、外部から多くの技術的な支援を受け入れるための受援拠点という観点もあるため、今後、検討させていただきたい。避難については、広域的な避難を受け入れるような規模の大きな施設整備というのは厳しいのではないかと考えている。思いつきであるが、一般の方が避難を要する際は、高専に相談をさせていただく可能性は大いにありうると思う。

B委員 D委員のご意見は、水防センターの平時の利用をどうしていくのか、その中で広域的なこともできるのではないかとという観点からなので、水防センターの活用のあり方も含め整理をしていく必要があると思う。A委員のご意見については、野洲市と調整しなければならないが、高専で整備する体育館を広域避難所にしていただくなど、これから整備の中で前向きに考えていければと思う。

C委員 緊急時の使い方は大体イメージできると思うが、平常時にいかに賑わいをつくるかというのが大事だと思うので、これから色々な人が集まったり、様々なことができるような広場・空間になるよう、また検討を一緒にさせていただきたい。

(2) 意見聴取について

資料2、資料3、資料4に基づき説明

結果

・意見聴取にかかる周知活動やイベントについて議論した。

主な意見

B委員 資料2に実行委員会を立ち上げるとあったが、どういう形でメンバーを募
るのかももう少し具体的に教えていただきたい。

事務局 資料4に MIZBE ステーションかわまちづくりを実現することで起こしたい
変化を挙げており、それぞれご意見をいただいている方を中心に実行委員会
の構成を固めていきたいと思っている。そのプロセスとして、まずは市の内部
で施設をどのように運用していくのか固めたうえで、どのような方がいいの
かについても意見を交わしながら構成員の方も固めていきたい。ただ、実行委
員会の構成については、決まったメンバーで固定するのではなく、議論を深め
ていく中で様々な課題等が出てくると思うので、柔軟にメンバーを募って運
営していきたい。

B委員 スケジュールはどれぐらいのスパンで考えていくのか。いつ頃までに立ち
上げて、どういう形で議論をして最終まで持っていくのか考えがあれば教え
ていただきたい。

事務局 スケジュールとしては、段階的なものをもう少し明確したいと思っており、
当面は施設規模を決めなければならないため、水防センターの規模やスポー
ツ施設についてもどの部分からやっていくかというような議論を進めていき
たいと思っている。それらの決定は来年度と考えており、運用面については、
まだ考える時間があると思っている。参画いただける事業の内容や運用の部
分も含め、別途スケジュールを立てて動いていきたい。

F委員 資料4の将来像は5年後を目途とするのか、10年後を考えておられるのか。
高専との連携について、学びの場、地域の人材の拠点とあるが、野洲には3つ
の中学校がある。先日、市内の企業と話をしたが、できれば地元の学生に来て
いただけたらと言っておられた。高専としては全国から学生を募集すると思
うが、地元の中学生を優先していただきたい。最終的な学生数は600人という
計画だが、資料の将来像は何年を目途にして考えておられるのか。少子高齢化
で我々団塊世代も年寄りばかりになってきているので、その辺も考えていた
だきたいと思う。

B委員 高専の入試制度をどうしていくか、また、地域枠を設けるか、推薦枠を設け
るか、というのはこれから本格的な議論をしていく。全国的には地域枠や女性
枠を設けている事例はあるが、県立高専ということも踏まえ、今後議論する中
で検討していきたい。

D委員 アンケートの取りまとめ方について、前回、居住地域もアンケートをとっていただきたいと意見した。確かに地域を挙げていただいたが、例えば、野洲地域であれば絶対的に数が多いなど、それぞれの構成比を考えて取りまとめていただきたい。

事務局 アンケートの分析の仕方は、これからアンケート量も含めて検討する。

D委員 できるだけ少数意見も汲んでいただきたい。もう1点、資料4の実現することで起こしたい変化の中でステークホルダーという言葉が使われているが、計画地には大きな商業施設や道の駅などの利害が発生する施設は隣接していない。大きな住宅地が隣接しているのみである。このステークホルダーという言葉に特別な意味があるのか。

事務局 利害関係者という強い意味合いで使ったものではなく、あくまでも様々な分野の方と一緒に持続的な施設になるように考えていくという趣旨で使っている。

D委員 企業がよく使う言葉であり、一般市民からするとなじみのない言葉であるので市民にわかりやすい言葉とするのが適当と考える。

企業版ふるさと納税であるが、企業側がこの施設を利用するかどうか考えると、大手の企業は自分の事業所を利用されるのではないか。企業版ふるさと納税はハードルの高い制度である。企業と win-win の関係を保っていただいて、大いに活用いただければと思う。

議長 ご意見として承る。ステークホルダーについては、ご意見もありましたように、より平易な言葉で願います。

D委員 資料4の実現することで起こしたい変化の中で、①市民の集い交流の場になる、②学び合いの活躍になる場になるという点は、学校等との連携で生み出せると思うが、③④に関しては定期的な企画であったり、⑥の持続可能な運営は結構大変だと思う。常に人が集まる場所にある会場であれば自然と情報が行き渡るが、離れた場所になると周知や常に何かをやっているという企画力がすごく大事になってくる。

また、その下の「学びで成長する」というところも、先ほどの学校等との取り組みで連携すれば可能と思うが、市民団体も多く、プロの方もたくさんおられる中、企画力を活かしたいと思う。そのようなアイディアはまた次回持ってこられるように考えるので、事務局でも情報を集めて、シェアしていただきたい。

(3) 協議会のスケジュール及び当面の予定について
資料5に基づき説明

結果 ・協議会のスケジュールについて議論した。

主な意見

F委員 フィールドワークに年齢制限はあるのか。

事務局 特に年齢制限は設けていないが、まだ暑い時期であるので参加者の意向を聞きながら調整をさせていただく。

C委員 公募で募集されるのか。当日に行っても参加可能か。

事務局 当日来られた方もお断りはしないようにはしたいが、事前申し込みという形で進めたい。

議長 もうすでに募集しているか。

事務局 募集は9月からである。

E委員 参加費は無料か。また、体験できること3つの全てに参加できるのか。

事務局 参加費は無料である。全ての体験ができるように配慮しているが、希望によっては調整させていただく。特に、水上アクティビティ体験は人数的に制約があるため、参加人数を見て調整をしたいと考えている。

F委員 水深が浅いとできないのではないか。

事務局 水深の状況も踏まえて今企画している。浅いところは船底がつくので場所を確認した上で企画する。

A委員 先日、琵琶湖河川事務所の職員と市職員で試行的に実施したが、大きなボートに何人も乗ると沈むため厳しいところがある。少人数のボートが用意できれば、平常時の野洲川であれば川の中の流れに乗って下ることが可能だと思う。

3. その他

F委員 将来像案を提案いただいたが、これは北野学区の市三宅・竹ヶ丘・竹生・駅前北で配布したらよいのか。

事務局 今後、施設に関する業務発注や利活用方法が具体的になるので、資料としてある程度固まった段階で共有させていただく。また、周知の範囲でもご相談させていただきたい。

F委員 高専の工事や MIZBE ステーションのアクセス利便性など、野洲駅北口から出て田んぼの真ん中を歩いていくのか、市三宅のどこを歩いていくのか、まだはっきりわかっていないと聞いている。市道市三宅竹生線は通勤時間帯に交通規制がかかっており、農道を抜ける車が事故を起こしている。工事が始まると地域住民に迷惑がかかるので、その辺も納得してもらえよう市から言っていたきたい。後で問題にならないよう地元と市が連携を密に進めて欲しい。

事務局 工事関係車両の通行については、MIZBE ステーションだけではなく、高専整備、通学路や市道の整備があるため、それぞれの工事の工程がはっきりした段階でご相談させていただきたい。市三宅自治会と竹ヶ丘自治会と竹生自治会の3自治会に関しては、近隣自治会ということで高専とその通学路等の件で説明会や意見交換をさせていただいている。今後、北野学区など広いエリアでという話があれば事務局にご相談いただきたい。

F委員 竹ヶ丘の児童数がピークを迎えており、5年後は大半が中学生になる。高齢者は市三宅でも竹生でも増えてくるので、その辺も考えなければならない。

議長 本日の資料は非公開ではないが、意思形成過程の中の資料である。ご説明の際にはもう少し煮詰まった資料を使っていたきたい。

4. 閉会

以上